

綴りの輪

(57)

袋一杯の資料がありますよ」と申し上げたところ大変な興味を示された。すでに宮沢芳重に関して、松川町教育委員会を中心に幾多の書籍文庫が刊行されている。*

身内のごとく恐縮ですが、同世代の先次叔父は病弱で飯田中学が卒業できず、苦学の末検定で早稲田大学に進んだ。卒業後は、定職に付かずおおよそ人が遣らない、お金にならぬ禁酒運動に一生身を投じ、極質素な生活で支出を切り詰めて、講義執筆で頂く僅かな謝礼などで生活した。戦後は、これまた人類究極の理想政治形態と言つべき世界連邦運動を加え、取り憑かれたように邁進していた。

同郷の宮沢芳重氏とは、反俗者同士共感したように恒例のように正月に先次宅を訪れ、大学構想の討議を重ねていたことも判明した。

長は、同じ武蔵野市に住んだ吉野叔父の長男昌平の連れ合いの小塩政子であり、伊那谷の民俗史にその名を残し『春と絹の歴史』などの著者として知られる章丘駄科の北沢小太郎氏の娘であった。彼女は、父君の後ろ姿を見て育ち、20年以上勤める間に小塩政子が一生書き残した数十冊の日記帳を読破し要約集を作っていた。また先次叔父は諸行事の写真を貰えば、古明に行事名場所出席者を裏書きしていた。私は改めてこれらを見るに及んではなはだ感心し、子どもに恵まれなかつた先次叔父の甥の一人として、これらの資料を決して歴史の流れの中に霧散させてはなまら思つて至つた。

父小塩政郎も何事にも好奇心を示し、家業の味噌醤油醸造の傍ら自伝『用伺い七十年』を残した。二人はそれぞれ先代を背負っていたこともあり、資料調査は政子、Worldによる文章化と写真編集は私と分担し3年がかりで小塩完次の伝記本、公平な目録、斯界の運動記録となるような本の編集を始めたのであった。*



小塩政子

2011年の早春のこと、法政大学国際文化部教授の高柳俊男先生からお電話があり、飯田を調べていると父小塩政郎、叔父先次の名前が良く出てくる。一度お会いしたい旨の電話を頂いた。故あって私が現在東京武蔵野市の叔父の小塩先次記念資料館の館長をしている(と)もあり、資料館にお訪ね頂いてお会いした。事細かに飯田下伊那の二つを二存しの方なので、てっきり飯田の方かと思つたら栃木県の方と言われ二度びっくりしたことがあった。

この出版の最終段階で小塩政子は癌再発に倒れ、最大の恩人が出版記念への出席も叶わず他界したが、病床で涙ながら

こともあり、資料調査は政子、Worldによる文章化と写真編集は私と分担し3年がかりで小塩完次の伝記本、公平な目録、斯界の運動記録となるような本の編集を始めたのであった。*

この種の連載記事を工学系の人が執筆することは比較的珍しく、きつぱに工学系の方が取り上げられることも希である。こんな意味から下平三郎の資料を求めて今年6月に飯田図書館を訪れたが、資料は全くなく故郷に知られていないことを知った。幸運にも飯田に育ち深志高校から東北大学卒部に進まれ、現在仙台在住で内科医を営む加藤純二氏のご尽力で、先生の奥様が仙台に元気でおられることが分かり、詳細な経歴や業績をお送りいただき、執筆が叶うこととなった。

「一途に求め続けた伊那飯田の先達」

小塩 立 吉

編集の途中で資料を読み進む間に、叔父が禁酒運動を通して影響を受けた先達の中に暮末に飯田の重臣潮田家に感銘した。同盟の基本財産は、叔父の遺産であり同盟を守ることも甥姪に課せられたテーマであった。出

片や私は、飯田市伝馬町松岡屋敷油店小塩政郎を父に伊賀良村北方伊藤齒科医院から嫁した千代を母とし末子として生まれた。幼少から電気に興味を持ち結局弱電技術者きとして人生の大半を過ごした。分野は異なるが工学人として、ふとしたことから東北大学金属工学研究所の教授を勧められ、金属の腐食・防食の権威として名古屋飯田出身で苦学の末そ

この度、南信州紙への執筆の機会をお世話頂いた、前澤義行氏(飯田市住)のご厚意に感謝し、「一途に求め続けた伊那飯田の先達」と題し暮末から明治を生きた潮田千勢子、明治に生まれ大正昭和を生きた宮沢芳重と

図書館に資料多数所蔵、別に宮沢芳重文庫(000番)の書籍が飯田図書館に。『春と絹の歴史』天理社、昭和55年、他、章丘駄科史の地方史編纂。注①小塩政郎は自伝『用伺い七十年』を残した。裏面文庫で求められます。松岡屋敷油店、今野町本下拓社長として系統し味噌の他、飯田下伊那で唯一醤油の醸造業者。注②『書真』日記を綴る小塩完次・七子の禁酒運動。世界連邦運動の年々(2009年10月23日私費出版、ハードカバーB5判180頁、飯田図書館蔵、裏面文庫で販売中、CREAM出版部可。

上京、四十路でなお学校に通い、日本の鉱書の原点足尾銅山の酷い鉱害に

また私の浅学非才のため、当然取り上げるべき方を漏らしたこともあるかと思ひます。この点是非ご指摘いただきたいと存じます。

◇ ◇ *ごしお たつきち 1936(昭和11)年生まれ。飯田市出身。一般財団法人日本禁酒同盟事務局長。東京都日野市在住。

注①一重屋アパの高精度化に関する研究「拓殖大学位論文」1963。飯田図書館蔵。注②代表著作『腐食・防食の材料科学』アーク技術センター1995。30年上版。飯田市の定本として1997年12月15日第2版を重刊。現在7000部第3版印刷中。

話が反俗の人飯田に大学を理想を描き続けた宮沢芳重氏に及び、「叔父は生前同氏と交流があり

に感銘され、私も運命を感じ資料館館長(正しくは日本禁酒同盟事務局長)を継ぐこととなった。同盟の基本財産は、叔父の遺産であり同盟を守ることも甥姪に課せられたテーマであった。出

注①下平三郎、松本拓著『人間 宮沢芳重』076・7・5 合同出版は合同文庫多数、飯田

注①加藤純二氏内院院。注②検索 http://www.geocities.jp/m_kato_chine/index.html